



2018年10月18日

各位

中外製薬株式会社
エンブレース株式会社
IQVIA ソリューションズ ジャパン株式会社

ゼローダ®の服薬適正化支援アプリが がん患者さんと医療従事者のコミュニケーション向上に寄与

[中外製薬株式会社](#)（本社：東京都中央区、代表取締役社長 CEO：小坂 達朗）は、患者さんと医療従事者とのコミュニケーションの促進と副作用マネジメントを目的として中外製薬が開発した「ゼローダ®の服薬適正化支援アプリ（ゼローダ服薬記録アプリ）」と、[エンブレース株式会社](#)（本社：東京都港区、代表取締役社長：松下 和彦）の多職種連携 SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）「MedicalCareStation（メディカルケアステーション）」を融合させたウェブアプリの試験的利用を一部の基幹病院にて行ってまいりました。今般、その検証結果が [IQVIA ソリューションズ ジャパン株式会社](#)（本社：東京都港区、代表取締役社長：宇賀神 史彦）の協力によりまとまりましたので、ご報告いたします。

【ゼローダ服薬記録アプリ試験的利用の背景】

中外製薬が実施した化学療法を受けた患者さんへの調査*では、診察 1 回あたりで医師と話す時間が 5 分未満の人は 21%でした。また、治療期間中に患者さんが不安を感じた時期は、「がんと診断されてから入院するまで」が 35%、「薬物療法を受けている期間」が 21%でした。さらに、治療中に看護師に「なんでも相談できて時間もすぐにとってくれた」と回答した患者さんが 31%であった一方で、「忙しそうでなかなか相談する時間を取ってもらえなかった」と回答した患者さんは 10%でした。

※ 対象：化学療法を受けた患者さん 146 名
方法：ウェブ調査
時期：2017 年 12 月 13 日～18 日

【ゼローダ服薬記録アプリを利用した医療従事者と患者／家族による評価】

複数の施設でアプリを一定期間使用後、IQVIA ソリューションズ ジャパンより医療従事者、患者さん／ご家族に対してアンケートとグループインタビューを実施し、アプリの利用回数を含め、その有益性について総合的に評価しました。その結果、医療者、患者さん／ご家族の双方ともに全体満足度が高かった一方で、今後展開していく上での課題も示されました。

【調査概要】

調査期間：2018年6月～8月

調査対象：アプリの試験的利用に協力いただいた、医療従事者（医師・看護師・薬剤師）15名、
がん患者さん6名／ご家族4名

アンケート回答者：医療従事者15名、患者さん2名／ご家族1名

グループインタビュー：医療従事者（協力施設毎に実施）

【調査結果概要】

①アンケート調査結果

- ・8割（12/15名）が「手間がかかっても有益」と回答
- ・約半数（8/15名）が「他の施設に薦めたい」と回答。3分の1（5/15名）が「どちらでもない」と回答し、「対象となる患者さんや時期を考慮する必要がある」とコメント
- ・「有害事象等の早期検知」、「診察内容の深まり」を主な理由として、約8割（13/15名）が「患者さん／ご家族とのコミュニケーション機能」を評価
- ・約半数（8/15名）が「診察時間を短縮できた」と回答
- ・「メール機能を用いてコミュニケーションがとれる」との評価がある一方で、「毎日操作することが面倒」とのコメントもあり

②グループインタビュー結果

- ・「有害事象等の早期検知・早期対応が可能であったこと」、「来院前の情報増加による診察内容の深まったこと」、「在宅時のフォローにより患者さん／ご家族の不安を軽減できたこと」を有益と評価
- ・「アプリの入力が面倒であり、電話対応の方が早い」、「利用対象となる患者さんの選定」、「システムの改善が必要」とのコメントもあり

③アプリの利用状況

- ・医療従事者、患者さん／ご家族とも、コメントの投稿はアプリ導入初期に多く、徐々に減少
- ・患者さん／ご家族による入力は服薬状況についてはほぼ毎日、症状は週1回程度

【今後に向けて】

中外製薬は、より多くの患者さんと医療従事者が円滑なコミュニケーションを図れるよう、他の治療領域でも新たなソリューション提供を行い、治療支援活動と副作用マネジメントの推進を継続して行ってまいります。

本アプリに関する注意事項

- ・診療報酬の請求はできません。
- ・ゼロダ投与後に有害事象が認められた場合、本アプリとは別に、医療者より中外製薬へ有害事象の報告をお願いしています。

以上

中外製薬について

中外製薬は、医療用医薬品に特化し東京に本社を置く、バイオ医薬品をリードする研究開発型の東京証券市場一部上場の製薬企業であり、ロシュ・グループの重要メンバーとして、国内外で積極的な医療用医薬品の研究開発活動を展開しています。特に「がん」領域を中心に、アンメット・メディカルニーズを満たす革新的な医薬品の創製に取り組んでいます。

国内では、御殿場、鎌倉の研究拠点が連携して創薬研究活動を行う一方、浮間では工業化技術の研究を行っています。海外では、シンガポールに拠点を置く[中外ファーマボディ・リサーチ](#)が革新的な抗体創製技術を駆使し新規抗体医薬品の創製に特化した研究を行っています。また、米国と欧州では、[中外ファーマ・ユー・エス・エー](#)、[中外ファーマ・ヨーロッパ](#)が臨床開発活動を行っています。2017年の連結売上高は5,342億円、営業利益は1,032億円（Coreベース）でした。中外製薬に関するさらに詳しい情報は<https://www.chugai-pharm.co.jp/>をご覧ください。

エンブレースについて

エンブレース株式会社は21世紀型の社会インフラの要となる、医療分野におけるプラットフォームを構築するために、ICT技術を活用した様々なソリューションを医療介護関係者、医師会、パートナー企業の皆様に提供し、医療・介護・健康・ヘルスケアを取り巻くエコシステムの構築を進めています。

今日、保健医療・介護福祉領域における課題は多岐にわたり、患者と医療介護関係者間のコミュニケーションや院内外の医療スタッフ間でのタイムリーな情報共有ニーズがますます求められてきております。

これらの医療現場のニーズに対応すべく、SNSなどの技術を駆使して当社が開発した、病院・クリニック・介護施設・薬局など医療介護分野に特化した完全非公開型医療介護SNS「メディカルケアステーション」により、在宅医療のための多職種連携等を実現することで、少子高齢化や疾病構造の変化など様々な社会的課題の解決を目指して参ります。

IQVIA について

IQVIA (NYSE : IQV) は、ヘルスケア業界のお客様がより優れたソリューションを患者の皆さまへ供することを、情報や革新的テクノロジーおよび臨床試験サービスを提供することによって支援する世界的なリーディング企業です。IMS Health と Quintiles の統合により誕生したIQVIA は、ヒューマン・データ・サイエンス分析の精緻さとデータサイエンスの明晰さを、拡大し続けるヒューマンサイエンスの領域に対し活用すること・を用いることにより、ヘルスケア企業の皆さまが臨床開発と商業領域における新しいアプローチを改めて思い描き発展させ、イノベーションを速め、ヘルスケア・アウトカムの改善を更に加速させることを支援します。私たちの原動力である「IQVIA CORE™」によって、実務実行力と同様に、私たち IQVIA は大規模な分析、革新的なテクノロジー、そしてスペシャリストによる幅広い専門知識、これらが交差する地点に、実用的且つ唯一無二のインサイトを提供しています。IQVIA では 5 万 5,000 人が世界 100 以上の国と地域で活動しています。

IQVIA は、患者の皆さまの個人情報保護の分野においても世界をリードしています。ヘルスアウトカムを発展させるのに必要な情報を収集し分析する一方で、様々なプライバシー保護のための技術や安全対策に取り組んでおります。IQVIA が持つインサイトや実行力は、患者の皆さまの治療・治癒の実現を目指すバイオテクノロジー企業、医療機器メーカー、製薬企業、医学研究機関、政府機関、保険者その他の医療関係者の皆さまが、疾患や人間行動、サイエンスの進歩を追求するのにきっとお役に立てるものと考えております。IQVIA の詳しい情報はこちら (www.IQVIA.com) をご覧ください。

上記本文中に記載された製品名は、法律により保護されています。

本件に関するお問い合わせ先

中外製薬株式会社

広報 IR 部

メディアリレーションズグループ

TEL : 03-3273-0881

エンブレース株式会社

メディカルケアステーション運営事務局

TEL : 03-6447-2061

IQVIA ソリューションズ ジャパン株式会社

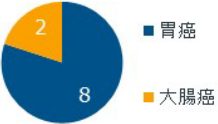
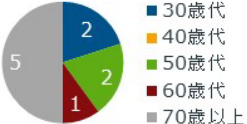
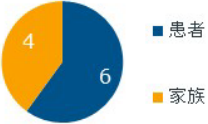

広報担当 (IQVIA ジャパン グループ 広報マーケティング)

TEL : 03-6894-5420

【ご参考】

調査概要

【患者背景・調査手法】

患者背景	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 胃腸癌 ■ 大腸癌 	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳以上 	
アプリ利用者	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 患者 ■ 家族 		
アンケート回答者	 <ul style="list-style-type: none"> ■ 医師 ■ 看護師 ■ 薬剤師 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 患者: 2 家族: 1 </div>	
対象	方法	調査時期	
医療者	アンケート	各施設の対象患者全てで利用が終了した時点	
	グループインタビュー(施設毎)		
患者/家族	アンケート	各人の利用が終了した時点	
共通	アプリログの解析	全施設での利用が終了した時点	

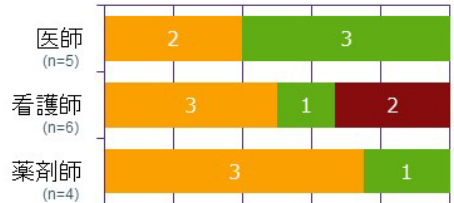
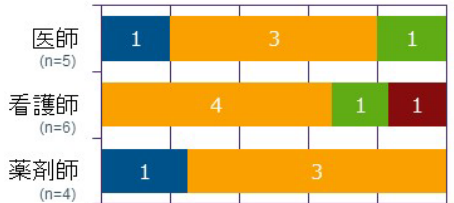
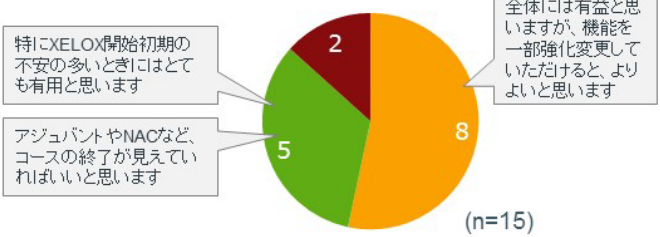
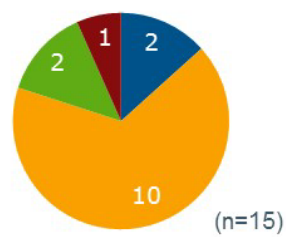
【アプリへの満足度（医療者）】

アンケート(医療者)

Q. 本システムは、
手間がかかっても有益でしたか？

Q. 本システムは、
他の施設にも薦めたいですか？

■ 5 (とてもそう思う) ■ 4 (ややそう思う) ■ 3 (どちらでもない) ■ 2 (あまりそう思わない) ■ 1 (全くそう思わない)

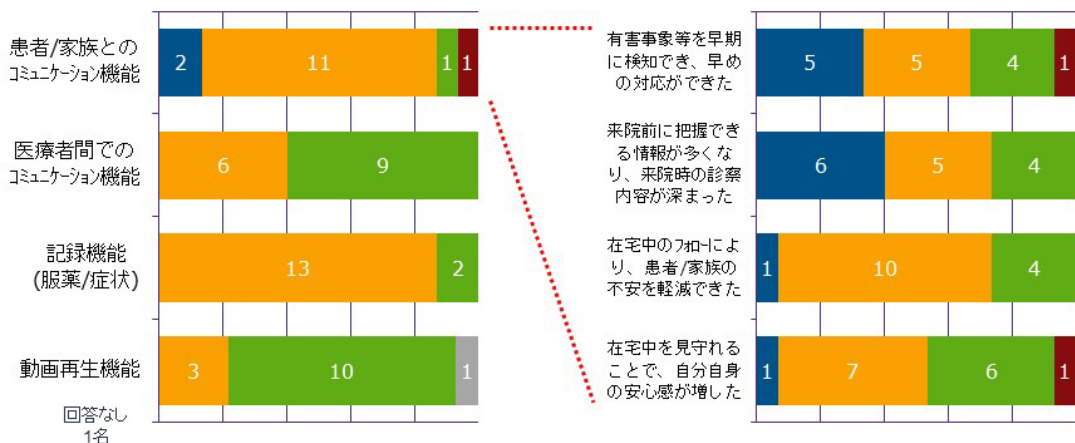


【アプリ搭載機能に対する評価】

アンケート(医療者)

Q. 各機能について、どのように感じられましたか？
(アプリのなかった今までと比較して)

- 5 (とても満足)
- 4 (やや満足)
- 5 (とてもそう思う)
- 4 (ややそう思う)
- 3 (どちらでもない)
- 2 (やや不満)
- 3 (どちらでもない)
- 2 (あまりそう思わない)
- 1 (とても不満)
- 1 (全くそう思わない)

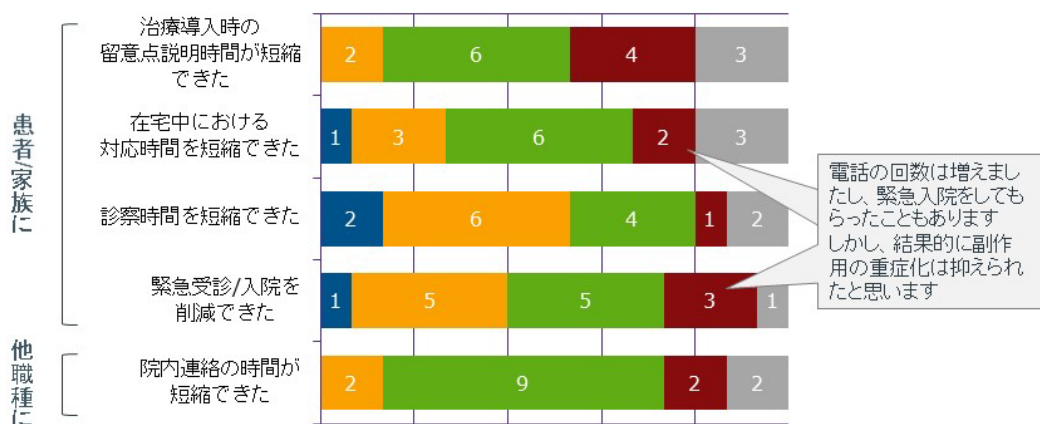


【時間的な評価】

アンケート(医療者)

Q. 時間短縮の効果はありましたか？
(アプリのなかった今までと比較して)

- 5 (とてもそう思う)
- 4 (ややそう思う)
- 3 (どちらでもない)
- 2 (あまりそう思わない)
- 1 (全くそう思わない)



【グループインタビュー結果】

グループインタビュー(医療者)

【医師】

- 下痢や食欲不振が出た患者に、早い段階で休薬を指示できた。
- 電話相談のあった手足症候群について、写真送ってもらって経過含め確認できたのは良かった。
- 診察に同席できない家族からのアプリでの情報提供で、診察時に適切な指導ができた。
- 今回は胃癌で全員入院導入だったが、外来導入で初期見守りが必要な患者(当院だと大腸癌)でこそ、このアプリは有益だと思う。
- アプリの入力内容だけでは情報が足りないこともあり、結果として来院してもらうことになった。
- 診察時間外に投稿内容を確認するのに負担は感じた。

【看護師】

- 食欲不振患者の回復過程が分かるのは良かった。
- 投薬コースの表示が休薬等により実態と差が出た際、電子カルテを確認することになって負担を感じた。
- アプリより電話で対応した方が早い。

【薬剤師】

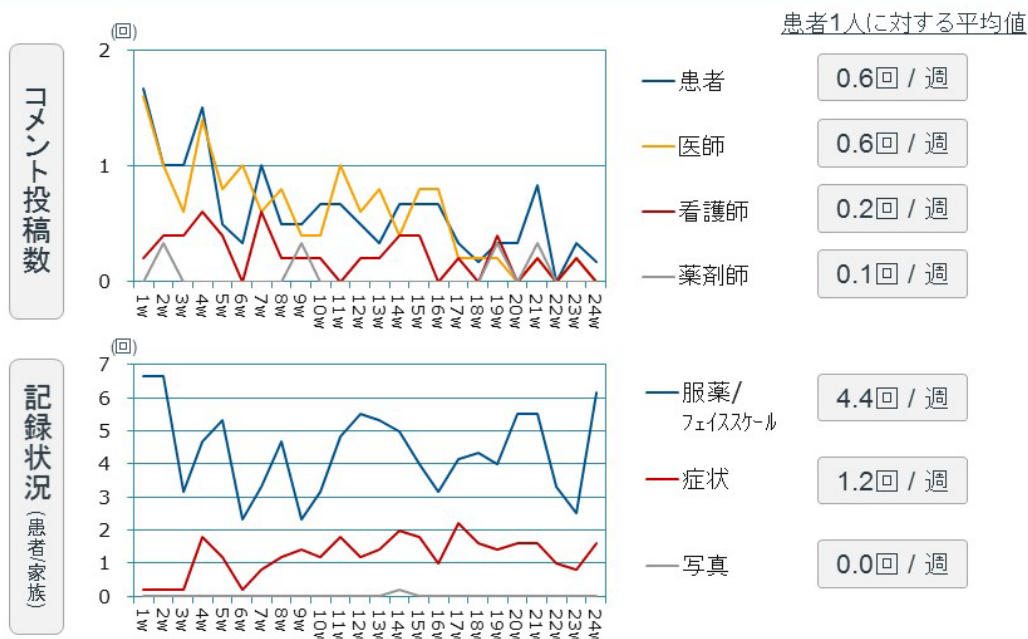
- 薬剤師外来の前に状況把握でき、医師とも事前打ち合わせができたのが良かった。

【共通】

- 患者から、見守られている安心感や感謝のコメントもらった。

【利用状況】

アプリログ(医療者/患者/家族)



- 各患者で服薬記録の初回入力日を1wの初日として集計
- 22-24w(8コース目)に服薬の記録があった患者6例を集計対象とした
- 1日に複数回投稿があった場合も1カウントとし、各患者の症例ごとに平均値を算出
- 服薬状況は服薬状況が記録された日を集計(1週間の服薬状況をまとめて1日で入力した場合も7日服薬を記録したと集計)